

来年の日台観光サミット

日程決定、県に通知

日本観光協会

石川県で来年三月に開かれる第四回日台観光サミットと地域視察の日程が固まった。三月十六・十九日の四日間、日本と台湾の観光関係者約百三十人が県内各地を巡り、石川の観光資源への理解を深める。



県側に日程を伝える日本観光協会の吉田理事長(左)と県庁で

日本観光協会の吉田正嗣理事長が十四日、県観光交流局を訪れ、日程を伝えた。吉田理事長は「サミットをきっかけに石川の魅力を強く訴え、(台湾からの観光客数の)回復につなげてもらえれば」と述べた。

サミットには、観光団体や旅行会社、航空会社の役員らが、日本から八十人、台湾から五十人参加する。

台湾側の参加者は、十六日に台北―小松便で県内に入り、加賀温泉に一泊。十七日は加賀・白山地域を視察し、十八日は金沢市内でのサミットに出席する。和倉温泉に一泊して能登地域を巡り、十九日に小松―台北便で台湾へ戻る。

サミットは、日台間の観光や交流の促進が目的。日本観光協会と台湾観光協会でつくる日台観光推進協議会が二〇〇八年から毎年開いている。(山本真士)

22.10.14
北国(朝・夕)
国際交流課

日台観光サミット
3月に金沢で開催
日本観光協
日本と台湾の観光関係者による「日台観光サミット」が来年3月18日、金沢市内で開催されることが決まった。14日に石川県庁を訪れた日本観光協会の吉田正嗣理事長が県側に実施計画を示した。

日台観光サミットは2008年に台北市で初開催され、09年は静岡県、10年は南投県(台湾)で開催された。石川のサミットには日台の旅行、航空会社、観光協会などの役員ら約130人が出席し、相互交流の発展などについて意見交換する。16、19日に県内に滞在し、観光地も視察する。

蟹田尚真観光交流局長と懇談した吉田理事長は「石川の魅力をPRしてもらい、観光誘客につながることを期待を込めた。」

22.10.15
北中(朝・夕)
国際交流課

モントレーの生徒
大浴場にびっくり
七尾の加賀屋訪問
七尾市を訪問してい
る姉妹都市の米国モン
トレー市の中学生十三
人が十四日、同市和倉
町の旅館「加賀屋」を訪
れ日本文化に触れた。
生徒たちは大浴場や
売店などを見学。大浴
場ではお風呂の中に足
を入れたり、お湯を手
ですくうなどして塩の
香りが特徴の「和倉の
湯」を肌で感じてい
た。普段温泉に入るこ
とが少ない生徒は脱衣
所の広さにも驚いてい
た。客室係の指導で抹
茶をたてる体験もし
た。
(倉形友理)

22.10.14
北中(朝・夕)
国際交流課

白山と豪・ペンリス

友好交流20周年で
和洋折衷アート展

十四日、白山市殿町の
市民工房つるわしで始
まった。二十七日まで。
昨年ペンリス市リ
シヨナルギャラリーで
開催された展示会の巡
回展。ギャラリーCEE
O(最高責任者)のシ
ヨン・カークマン氏が
自ら企画・展示した。

会場には、両市や友
好関係にある静岡県藤
枝市の市民らが身に着
けた消防、工事関係者
らのユニフォーム姿の
パネル写真を紹介。姉
妹都市文化展として、
角光雄白山市長が制作
した抹茶碗、大浦宏一
さん、洋子さん夫妻
(白山市長屋町)によ
る畳アート、つるわし



ユニフォーム姿を収めたパネ
ル写真を鑑賞する角市長(左)と
カークマン氏＝白山市殿町で

の山瀬晋吾
工房長の彫
刻なども展
示されてい
る。
開場に先
立つオーブ
ニングセレ
モニーで、
カークマン
氏が「日豪
の現代アートと伝統的
な芸術がミックスした
文化交流プログラム
として開催した。今後
の交流がともなう。今
角市長や市関係者らと
ともにテープカットし
た。

(山本淳一)

アフリカに届け 古着や文房具

三馬小は約20年前から続けてきたアフリカへの支援を今年復活させ、14日、児童が集めた古着や使わない文房具などをブルキナファソの同世代の子どもたちへ発送した。これまで物資を届けていたマダガスカルの内政事情の悪化で昨年は中断し

三馬小

20年の支援活動再開



配達員に支援物資を託す児童 —三馬小

たが、活動再開を望む児童の声に応じて支援先を委ね、少し早いクリスマスプレゼント」として物資を送ることにした。

同校が取り組むボランティア活動「オレンジ作戦」の一環で、見

同校は約20年間、アフリカのマダガスカルに物資を送る活動に取

り組んできたが、政治的混乱が続き、今年も現地への送付が困難となった。昨年の中止を受け、児童は「今年こそは」と意気込んでいたため、同校栄養教諭の井上奈緒さんが青年海外協力隊として2年間ブルキナファソに滞在していたことを縁に、今年支援先を委ねて活動を再開することにした。

14日は児童が梱包した物資を金沢南郵便局の配達員に手渡した。11月中旬ごろにブルキナファソに到着し、現地でストリートチルドレンの支援活動に取り組みNGOアーセットを通じて、子どもたちの教育に役立てられる。

木下健斗委員長(6年)は「送った鉛筆を使ってたくさん勉強で

きるようになったらうれしい」と話した。

19日に大連で商談会

金沢会議所
北國銀など 25社・団体が参加

金沢商工会議所が企画し、北國銀行と大連銀行が提携第一弾として協力するビジネス商談会が19日、中国・大連市で開かれる。石川県内から食品関係など25の企業・団体が参加し、大連銀行側が紹介する中国側企業と個別商談を交わす。

金沢商工会議所が定期開催する金沢商談会の大連版として実施する。北國、大連両銀行のほか、日本海国際交流センター、金沢市が協力し、中国市場の開拓を狙う地元企業を後押しする。

初の海外視察研修

北國銀 中国、東南アジア 2コースで

北國銀行は、若手中堅行員を対象に、初めて海外視察研修を実施する。取引先の海外進出が増えているため、現地の事情に精通した行員を増やし、海外ビジネス支援体制を拡充する。本部だけでなく、営業店でも取引先の海外進出、投資の

深山村会頭らが訪中し、19日に大連市や大連銀行を表敬訪問する。21、22日には、大連市人民政府が主催する大連中日貿易投資展示商談会に、金沢商工会議所から24の企業、団体が参加する。

「東南アジア」は本部と営業店の行員4人とシンガポール駐在員とシンガポール駐在員事務所員1人が参加。シンガポール、インドネシア、ベトナム、マレーシアを訪れる。参加行員は7月に募集し、それぞれ10人以上の応募があり、小論文で決定した。20、30代前半の若手中堅行員で、同行は「行員のチャレンジ精神を養い、グローバルな視点を持った人材を育成する」としている。

常州、蘇州を回る。業務提携先の大連銀行との交流や、取引先の現地法人の視察などを予定している。

「上海・大連」は営業店の行員4人と上海駐在員事務所員3人が参加し、上海、大連、

都市と水の関係学ぶ

金沢で歴史的用水シンポ

国内外の専門家が講演

金沢市が主催する「歴史的用水国際シンポジウムin金沢」の歴史や用水の発展、水力利用についての研究結果が報告され、参加者は金沢における用水の重要性にも理解を深めた。

シンポジウムは市内を55本の用水が流れる「用水のまち金沢」を発信する目的で、国内で初めて開催された。市からは岡田宜之歴史遺産保存部長が講演



は城下町金沢の骨格を形成する重要な要素となった」と強調。辰巳用水の国史跡指定など、用水保全のために取り組んでいる施策や条例制定を説明した。

仏電力公社研究所副社長のピエール・ルイ・ウイオレ氏は、紀元前のギリシャ、ローマに立ち、金沢の歴史をひもときながら「用水普及と人口増加には相関関係がある」と述べた。イラン・ケイエヌトウーシー工大教授のファハッド・ヤズタン・ドゥースト氏は、砂漠地帯で水の蒸発を防ぐため地下深くに掘られた水路を紹介した。神戸大学大学院助教の神吉和夫氏らも講演した。15日はパネル討論などが行われる。

紙つて

香港で、知日派の米国人
ジャーナリスト二人と会っ
てきた。二人とも、米国の
超一流大学卒業後、日本に
留学、日本の記事を英語で
配信する仕事をしていた。
彼らが学生だった二十年前
までは、米国の超一流大学
・大学院には日本人留学生
が溢れ、日本学が盛んで、
日本語を学ばうとする学生
も多かったそう。今や日
本からの留学生は激減し、日本
への関心は低下した。その代わ
り中国、韓国からの留学生が幅
をきかせ、中国語のクラスは満
杯だそうである。ノーベル賞受
賞者の根岸さんが心配して「日
本の若者よ、世界に飛び出せ」
と言つて気持ちがよく分かる。
彼ら自身も、日本が好きで日
本で仕事をしていたが、徐々に

日本の存在感の低下

山田 昌弘

日本の記事の依頼が少なくな
り、結局、香港に渡り、
中国を中心とした東アジア
の記事を配信する記者にな
っている。彼らも今、中国
語を学んでいる。悲しいこ
とに、時々来る日本関係の
依頼は、日本停滞の原因を
分析して、欧米に警鐘を鳴
らす記事だという。先日
も、所在不明高齢者問題が
米国で起きないようにする
ためにはとか、人口減少で
シャッター通りになる商店
街などの記事を書いたそう
だ。
日本の法科大学院の失敗を教
訓にした司法改革を行い、少子
化対策のため戸籍制度を廃止し
た韓国など、グローバルに反面
教師になっている日本の話をあ
らうと聞く。「このままだと、
存在感の低下だけでは済まない
事態にならないかと心配であ
る。」

(中央大教授)